自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念及び行動指針を朝礼時に皆で唱和し共有している。また、名札に記載し常に携帯している。	理念、行動指針を朝礼時に唱和すると共に、理念等を記載した名札を常時携帯する等、その共有に努めています。また、職員同士の声かけ、譲り合う気持ちの醸成等、理念の実践過程における具現化にも努めています。	理念や行動指針を施設玄関等の館内各所に掲示（表示）し、来訪者等地域の人々へ開示することにより、施設に対する認識と理解を深めて行く取り組みが期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新設であるため、コロナ禍で活動が中止などで参加できなかったが、地域の祭りや近隣の学校の実習の受け入れを行っている。	コロナ禍で、地域行事への参加やボランティアとの交流が一部実施できなかったが、実習生の受け入れや手作りの新聞（なごみ新聞）を通しての家族との繋がりを大切にした取り組みが確認できました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の学校の実習受け入れや施設での取り組みを法人内新聞で定期的に発行し近隣や関係部署に配布をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の生活状況や当施設の課題などを報告し意見を頂き今後の支援に役立つ工夫をしている。	入居者の生活状況の報告や事故防止、感染対策等の運営課題について活発な意見交換が行われています。なお、コロナ禍で、年6回のうち2回は書面による協議、検討が行われていることも議事録により確認されました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席いただき、適切なアドバイス意見をいただいている。また、確認したいことは定期的に連絡して必要な情報をいただいている。	運営推進会議での意見交換を始め、コロナ禍での対策、特に、感染防止のための衛生品の確保等、行政と連携、協力しながらの取り組みが行われていることが確認できました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を定期的に実施し、毎月の職員会議では、身体拘束防止についての再確認をしている。また、やむを得ず身体拘束をする場合についても「切迫性」「代替性」「一時性」マニュアル及びフローチャートを再確認している。	身体拘束（虐待含む）防止については、年2回の委員会開催に加え、毎月の職員会議において確認、検討する等、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。なお、密な状況を避けるため、eラーニングでの学習会も適宜行われていることが諸記録から確認できました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の学習会を実施し施設内での会議などで話しているが、コロナ禍で集まりが難しくなっているため、ネットでの学習会を行い、皆に周知できるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の学習会及び専門職に説明を頂き知る機会を設けている。また、必要と思われる方については、法人内の専門職にアドバイスを頂くようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、契約書・重要事項を説明を実施し、入居までに確認したい事項などがあれば電話対応などを実施し、契約時に再説明を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々に意見を確認し要望に応えれるように、会議で協議をしている。また、意見箱を設置し直接申し出ることができない方用にも対応している。	コロナ禍で、家族との面会、面談等の機会が制限される中、運営推進会議やなごみ新聞等を通して丁寧な状況報告がなされていることが、アンケート結果から窺い知ることができます。	外部評価の結果や家族アンケートから得られた課題を運営推進会議や行政と共有、検証し、今後の運営に反映させる取り組みに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議及び全体会議を月１回行い意見交換を実施している。入居者の状況についても都度協議し、担当職員が考えた内容が実施出来るようにアドバイスなどを行っている。	毎月開催されるユニット会議や全体会議において提案された意見、要望を協議、検討し、業務改善に繋げていることが諸記録から確認されました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニット会議・全体会議・法人内会議があり、個々の意見や就業状態など環境改善ができるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修の実施回数は少なかったが、法人内研修はe-ランニングを活用し個々の学習会ができるようにしている。また、テストも実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設に開設前研修や情報共有を行っている。週1度は情報交換を実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	戸惑いや不安が少なくなるように同じ職員が対応し同じ職員が常に近くで傾聴し、関係性が作れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談があった場合は、自宅等に事前訪問を実施し、家族との情報共有に勤めている。また、家族の不安にたいして、定期的に連絡等を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設で出来ること、出来ないことをはっきり伝え、現状の状況を隠さず話し、利用者に何がふさわしいのか、家族の思いはどうなのかを聞きながら、必要であれば、他の施設の説明も含め実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を持ちながらでも、父母、祖父母に近い思いを持って接することができるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来た時や電話があった際に近況を報告するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人、知人が面会に来た時には本人に確認を取って面会して頂いております。また、電話でも本人に繋ぐなどの対応をしている。	コロナ禍で、直接の面会や外出等の交流が制限される中、窓越しのピッチ（PHS）を活用した面会を工夫する等、関係継続に向けた支援に務めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置に工夫をし、お互いに助け合える環境整備に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に病院には面会を実施している。他施設等であれば、家族の相談によって対応している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人・家族の意向は確認するが、生活する中で意向の変化に気付くように傾聴や表情などで確認できるように取り組んでいる。	担当制がとられており、毎日の声かけや、傾聴、表情等から得られた細かな気づきや変化を記録し、日々の支援に反映させる取り組みが行われていることが諸記録から分かります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報から情報を収集し、話のきっかけを作ることで、本人から話が聞けるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムが分かるように記録に残している。毎朝夕の申し送り時にも通常と違った状況なども含め周知できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議で、現状の内容、支援変更の内容を担当職員から意見をいただき、協議した内容を反映できるようにしている。	入居時のアセスメントに基づく介護計画に加え、その後の見直しの際にも、アセスメント、モニタリングなど、ケアマネジメントの過程が丁寧に展開されていることが支援記録やユニット会議録にて確認されました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や経過支援記録に経過を残し、迅速に必要なことは、勤務の職員で協議し都度対応を行いユニット会議等で最終調整している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望に添える支援を行うようにしている。遠方は困難ではあるが、病院受診や一時帰宅などの支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に小中高校があり、高校とは実習などの関りを持っている。買い物についても近隣の社会福祉法人が、送迎付きで買い物支援をしているが、現在は、コロナで休止中になった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を優先して支援を行っているが、かかりつけ医や変更を希望する場合は、法人内の病院の紹介も実施している。	本人、家族の希望するかかりつけ医への受診が行われており、特に、法人併設の病院は24時間対応可能な医療機関であるところから、常に密接な連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐している看護師に、日常の疑問や支援の在り方について確認できるようにしている。法人内の病院と連携をしており、24時間体制で対応が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に状態確認に訪問を実施し、相談員及び看護師との情報共有に勤めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度になった場合の対応や終末期の状況について家族の意向を確認している。関係機関と連携が出来ように取り組んでいる。	入居契約時に、重度化や終末期の方針について本人・家族等との話し合いが行われています。状況に応じて、家族、関係機関と協議しながら支援に当たっています。看取りは現在行っていませんが、職員との意識の共有を図るべく協議を進めているとのことです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し取り扱いについても定期に実施している。急変時の緊急連絡手順を作成しいつでもすぐに確認ができる場所に置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回、設定を変えて訓練をしています。年に1度は消防署立会のもと訓練を行っており、新入職員には初期消火を行えるように消火訓練を実施している。災害時の避難場所についても周辺施設と連携をとっている。	消防署の指導を仰きながら、定期的に防災避難訓練等が行われており、災害時の避難場所についても周辺施設との連携が取られています。コロナ禍の中、地域との協力体制を進めて行くことが今後の課題という状況です。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期の接遇研修をし、職員同士での言葉使いに注意が出来るようにしている。言葉かけのエピソードなども申し送り時に話している。	職員同士でお互いの言葉遣いについて注意し合う雰囲気作りに努めています。特に、排泄誘導の際の声かけ、スピーチロックの防止等、一人ひとりの人格を尊重したやさしい対応に心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができるように声掛けや傾聴をしている。訴えが難しい方などは、表情やしぐさで確認をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の思いやペース、希望に沿った支援に心がけているが、生活にメリハリや負荷がある支援も行えるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は衣服の更衣をし整容を行うようにしている。出来ない方は、口腔ケア時などに行なっている。定期的に訪問でのヘアーカットもお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物を聞き取りし、本人の能力にあわせ食事作りやおやつ作りを行っている。	法人施設と連携した食事の提供が行われています。利用者の好みや力を活かしながら、毎月一回の食事作りやおやつ作りを職員と一緒に楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	表に食事量と水分量を記録しすぐに確認できるようにしている。水分量が少ない方には定期的な声掛けや好きな飲み物を購入し水分を摂ってもらえるようにしている。食事も本人にあった食事形態等に変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方は、自分で行っていますが、職員が口腔内のチェックを日に1回は実施。できない方に関しては、職員が行い舌苔や歯の状態について観察を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンなどを確認し事前の声掛けや誘導を行っている。夜間は、就寝前等に排泄誘導を実施している。	排泄に関するアセスメンとに基づき、一人ひとりの排泄パターンに応じた事前の声かけや誘導等、排泄の自立にむけた支援に務めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動やマッサージなどを行っている。食事に関しては栄養士の適正栄養量に基づいて提供し、牛乳やヤクルトも提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、体調や必要性に応じて、都度変更している。また、週2回の入浴になっているが、希望や必要に応じて回数も増やしている。ゆず湯や入浴剤も使用している。	週2回の入浴を基本にしながらも、その日の体調や希望に配慮した柔軟な対応がなされています。入浴を拒む方には、ご家族の協力を頂きながらの入浴支援も行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが整うように支援をしているが、長年の生活習慣を見ながら食事の提供等も行っている。夜間帯も安眠できるように、必要に応じた声掛けや支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットに処方箋ファイルを作成し、いつでもすぐに確認できるようにしています。また、体調に変化があれば記録し、看護師に相談し主治医との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯、食器洗いなどをお願いしています。おやつ作りや昼食作りでは出来るところをしてもらい、意見をもらいながら一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩や日光浴を行っています。ドライブはコロナ禍で人の少ない場所か車内から、紅葉やお花を見に出かけいる。	コロナ禍の中で、施設周辺の散歩や日光浴、車内からのお花見（藤、桜）等、工夫をしながらの外出支援が行われています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の持ち込みは禁止しているが、月当たり定額な金銭が使えるように家族の了承を得ており、定期的な買い物を実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を希望すれば取り次ぐようにしている。本人が字を書ける場合は一言書いてもらい、書けない方は職員が代筆して年賀状を送くっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りなどを一緒に作って飾っている。また、プランターに花を植え季節感を感じていただいている。	手作りのカレンダーや鯉のぼりの絵等、季節感を採り入れた居心地のよい共用空間づくりに努めています。また、居室以外の、自分の時間、独りの時間を大切にするプライベートスペースの確保に配慮した取り組みも行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多目的室を活用し、ひなたぼっこや気の合ったもの同士が過ごせるスペースとして活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が気に入っていた家具や飾りなどを持ってきていただき、本人と家族と職員で話し合いながら過ごしやすく、支援をしやすい配置にしている。	ベッド、タンス等は備付けですが、利用者の使い慣れた、馴染みの家具や飾りつけを持参する等、居心地の良い居室づくりに努めていることが、写真等から確認できました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印を付けることで、居室、トイレ、自席が分かるように工夫し、必要があれば居室の変更も可能にしている。		